住吉大社のある暮らし　sumiyossan　vol.43

住吉さん

海の神
おはらいの神
安産の神

住吉大社

楠高社（巳神さん）

ひと皮むける、絶好の一年です。

古事記や日本書紀にも登場するヘビは、古代より神の使いや神そのものとして神聖視されてきた動物です。全国各地でヘビの俗信はありますが、特に白ヘビをみると縁起が良いとされ、「家運が上がる」または、ヘビの抜け殻を財布に入れて大切にしていると「お金がたまる」などと信じられてきました。

第一本宮の瑞垣を挟んだ北側に、通称 巳神（み）さんと呼ばれ信仰を集めるお社があります。正式には楠高社（くすたかしゃ）と言い、楠のご神木自体が信仰の対象として崇められています。社殿はなく鳥居と東屋、そこに奉納された提灯が吊られ杜の中にひっそりと佇んでいます。古くは婦人病の治癒祈願が多くありましたが、このご神木に白蛇が住み着き、見かけると幸運を授かるとされてきたことから、いつしか楠高社は巳神信仰が強くなり巳神さんと呼ばれ親しまれるようになりました。現在でもご神木の根元には卵が供えられ、巳神さんの出現が期待されています。

令和七年は巳年です。住吉大社にお参りの際は、是非とも巳神さんにもお参りいただき、ミを結ぶ充実した年にしていただきたく存じます。

巳年に受けたい
神符・縁起物

硝子干支置物（がらすえとおきもの）
初穂料：2,000 円

魔除矢干支飾り（まよけやえとかざ）
初穂料：1,500 円

干支張子（えとはりこ）
初穂料：1,500 円

住吉人形（神巳）（すみよしにんぎょう しんし）
初穂料：1,000 円

木彫（もくちょう）
初穂料：（大）5,000円（小）2,000円

開運招福　巳年の御守

～その年の干支のものを
身につけると幸運が訪れる～

招き干支飾り
初穂料：1,000 円

カード型干支守
初穂料：1,000 円

しあわせ干支守
初穂料：1,000 円

干支水晶守
初穂料：1,000 円

住っこ干支守（巳）
初穂料：(各)1,000 円

新春限定 刺繍御朱印紙

「反橋と白鷺」「神巳」
初穂料：(各)1,000 円

金運・仕事運上昇

仕事守（天然サファイア糸使用）
初穂料：1,500 円

金運守（天然ダイヤモンド糸使用）
初穂料：1,500 円

第一回

堺と住吉大社

―住吉祭にみる両者の関係―

摂泉堺郷土史研究所長・元堺市博物館学芸員　吉田 豊

はじめに

毎年八月一日には、現在でも住吉大社の神輿行列が堺宿院の御旅所までお渡りする住吉祭がおこなわれている。堺と住吉大社との関係は長く深く様々にあるが、そのなかでもこの住吉祭はそれを象徴するものであろう。

住吉祭（堺渡御）は江戸時代までは旧暦の六月晦日であり、六月の大祓の日であることなどから、お祓い祭りとも呼ばれた。また翌日には七月朔日、すなわち旧暦では秋になることから、夏越しの祭りとも呼ばれた。

江戸時代に大和川が堺と住吉の間に付け替えられ、今はそこが大阪市住吉区・住之江区と堺市堺区の境界線になってしまった。しかしそれにもかかわらず、市区境を越えて住吉の神輿は毎年堺までやって来るのである。それは、江戸時代よりも遥か昔からの伝統によるところが大きいと考える。

本稿では、戦国時代から江戸時代にかけての、住吉祭の堺渡御の様子が具体的に分かる史料をみていきたい。

ヨーロッパ人がみた住吉祭

戦国時代に来日したイエズス会の宣教師たちは、イエズス会の上司や同僚に宛ててたくさんの手紙を書いている。ここでは宣教師ガスパル・ビレラが、西暦（ユリウス暦）一五六一年八月十七日付で堺からインドのイエズス会修道士らに宛てた書簡（手紙）に記された住吉祭について見ていこう（『十六・七世紀イエズス会

日本報告集』Ⅲ期第一巻、同朋社、一九九七年、四〇四頁）。

このころ九州を拠点としていた日本のイエズス会（インド管区、日本準管区）であったが、一五五一年のザビエルに続いて一五五九年にビレラが都地方に派遣される。戦乱などで京都での布教が進まず、堺の貿易商である日比屋了珪に招かれて堺に一年ほど滞在するのであるが、その最初の印象などを記した手紙である。

ここでビレラは、「ここ堺の市は非常に大きく、有力な商人を多数擁し、ヴェネツィアと同様、執政官が治める共和国のような所である」と知らせている。堺は「東洋のベネチア」であるという、最近でもよく言われたフレーズは、このビレラの印象を元にしていると思われる。ただ、当時は東洋・西洋という概念はなく、『フロイス日本史』（後述）三巻一三九頁では、堺を「日本のヴェネツィア」と記している。

同じ手紙のなかでビレラは、「この市に到着した後、多くのことを見たが、あまり長くならぬよう一つのみを尊師らに述べよう」として、印象深かったと思われる住吉祭について次のように記している。

一五六一年七月二十九日、堺の「市民は大明神と称する人間のために祭礼を行なう」。堺から一里の住吉大社から「多数の人が訪れる。まず第一に、馬に乗り、太刀を手にした偶像が現れ、その後から弓と箙を携えた小姓一人が続き、鷹を手にした別の小姓が馬に乗って従う。この後、馬上および徒歩の人が多数現れ、偶像に同伴する」。

この偶像とは、神事行列の先頭を行く猿田彦のことであろうか。

「この人たちは種々の紋章を携え、各自が武器を持ち、歌い踊りながら歩いて行き、千歳楽、万歳楽と唱える」。「馬が通り過ぎると仏僧がことごとく白衣をまとって歌いながら現れ、この後、冠を被った貴人らが馬に乗って街路を進み、五、六名の女妖術師が白衣をまとい多くの装飾をつけ、女性を数多く伴って歌いながら来る。これに続いて、武装した人たちが祭神を乗せて（行列の）最後から来る輿を迎えるために従う。この輿はことごとく金が塗ってあり、約二十名の人が運ぶ」など、日本人以上に詳しく観察している。

同様の記事は、イエズス会士ルイス・フロイス「日本史」の一五六二年記事にも見られる（『フロイス日本史』三巻、中央公論社、一九七八年、一五五頁）。ただしフロイスが日本（九州）に来たのは一五六三年のことであり、堺に着いたのは一五六五年が初めてである。フロイスがイエズス会に命じられて「日本史」

をまとめるのは一五八三年以降であるが、堺にも累計で三年以上は滞在しているので、フロイス独自の見聞によって書かれた部分も多いが、この住吉祭に関する部分はほぼビレラの手紙に基づいて記しているので、実際は一年前の一五六一年の住吉祭であろう。

次に、ヨーロッパ人の日本記録としてよく知られているシーボルト『日本』（一八三二～五一年刊行）の八編、日本の宗教、二章、日本列島の住民の古来の宗教である神の神事の概要、一四、住吉社をみてみたい。

ここに、「神殿はすでに西暦二一九年に建てられている。収入は二一一六石。浄めの祭は六月の最後の日に行われ、日本で最も壮麗な祭である」として、住吉祭が日本で最も壮麗な祭であると記されている。

ヨーロッパ人の住吉大社と堺

堺と住吉大社の関係を示す『フロイス日本史』の記事として、住吉祭を記す冒頭に、人々は住吉大明神を聖人と見なして敬慕していたので、「彼のために堺の郊外約半里のところで、（今、堺）市の人々の行楽地となっている広野に、大きく、かつ多数の社を建てた」と記している。江戸時代に大和川が堺と住吉の間に付け替えられる以前であり、住吉大社が堺郊外の行楽地ともなっていたとしている。

同様の認識は、時代はやや下るが一六六九年にオランダのラテン語学校長であったモンタヌスがまとめた『東インド会社遣日使節紀行』（通称『モンタヌス日本史』）の挿絵の一つである「堺郊外の大殿堂図」にも見られる。この図を収めている『モンタヌス日本史』一冊は洋革製の表紙で、本文はオランダ語版であり各国語版の初版と思われる。ドイツ語、英語、フランス語版などに訳され、イエズス会宣教師の日本報告とともに、西洋人の日本観に影響を与えたものと思われる。

筆者が堺市博物館学芸員として在職中の一九九四年度に購入したものであり、翌年度に担当した秋季特別展「堺と三都―まちと名所をめぐって―」で展示し、また図録に解説文を書くに際して、住吉大社とその神宮寺を想像して描いたものであると推定した。

なお、この図はドイツ語版、みやこ図は英語版であるが、堺市図・大坂図・江戸図などはオランダ語版である。当時の洋

堺郊外の大殿堂図『モンタヌス日本史』1669年の挿絵、堺市博物館所蔵（「堺と三都」特別展リーフレットより）

書の挿図はそこだけ抜き出しやすいこともあり、絵図だけを単独で売りに出すことも多かったので、あとでドイツ語版から補充したものであろう。また、彩色はすべて手彩色によるもので、高額で売るなどのために製本前に施されたもののようである。このドイツ語版についても、オランダ語版と同様の色調であることから、早い時期に補充されたものであろう。

モンタヌスが日本に来たことは一度もなく、この絵（印刷図に手彩色）も想像して図絵師に描かせたものであるが、この挿絵のある付近の本文中には「内裏の父の建てた堺に近い殿堂」という記述があり、『フロイス日本史』の一五六二年の住吉祭などを参照したと思われる記事もあることから住吉と考えた。

堺と住吉大社が密接に関係していることを、当時のヨーロッパ人も認識していたことを示す貴重な資料である。

住吉祭の練り物行列

住吉祭には住吉大社側の神輿などが堺の御旅所までお渡りする行列と、氏子である堺の町衆がそれを歓迎して迎える行列とがある。ここでは前者を神事行列、後者を練り物行列と呼んでおきたい。

たとえば京都の祇園祭で、現在は髙島屋の西側にある御旅所まで八坂神社の神輿などが渡御してくるのが神事行列、それを迎えて練り回る山鉾巡行が練り物行列ということになる。

住吉祭の練り物行列がかなり具体的に分かる最初は、堺市博物館所蔵の堺市指定本「住吉祭礼図屏風」六曲一双の右隻側に描かれた行列であろう。寛永期（一六二四～四四年）ころに制作された屏風である。

次に、ある程度まとまって記されている史料としては、元禄一七年（一七〇四）の『堺手鑑』があるだろう（『堺市史史料』堺市立中央図書館蔵）。なお原題は『元禄十七年改手鑑』である。『堺市史』用の編纂史料とした写本であり、原本は妙国寺所蔵である。

「五五、御祓一件…、六月中旬、祭礼の義に付、町触を書き出す、覚、一つ、祭礼の時分、弥

堺市指定文化財住吉祭礼図屏風、堺市博物館蔵、右隻、堺の町衆による練り物行列部分（『グラフ堺』26号1995年、堺市広報誌より）

諸事軽く仕(つかまつ)り、祭に出候町人の衣服、絹・紬(つむぎ)・麻布・木綿の外着用仕るべからず、笠鉾に懸け候小袖并に帯・小袋、又はふきぬき（吹貫）・小旗・作り物・人形の装束等に至るまで同前たるべし」

『堺手鑑』は、現代風に言えば堺市の市勢要覧・統計書のようなもので、総年寄や堺奉行所与力(よりき)たちが毎年作成した手控えであり、必要に応じて堺奉行にも献上したものと思われる（拙稿「堺近世の産業構造と生業・衣食住」『堺研究』四四号、堺市立中央図書館、二〇二二年、七三頁）。

市中でおこなわれる年中行事についても記されており、ここは住吉の御祓祭に関して、練り物を出す町人たちの守るべきことを、奉行所・総年寄から通達した部分であり、元禄一六年の住吉祭について、質素倹約を心掛けるべしというものである。同様に大坂町奉行所においても、座摩宮・天満天神宮・住吉などの祭礼のねり物等について、華美を控えるべしという触れが出されている（「大坂町触」元禄三年、『大阪市史』三巻）。

笠鉾が練り出され、その上に載せたのか装束を着飾った人形も出されていたことが分かる。かさ鉾については、寛文二年（一六六二）の中川喜雲『案内者』にも、住吉祭の「ねり物・傘鉾さまざまあり」とある。井上鉄炮鍛冶屋敷では、堺北庄の菅原神社の祭礼の青龍（刀）鉾に載せたと思われる人形が見つかっている。

続いて、「一つ、神輿舁きの事、人数弐十四人、柿色の装束、烏帽子着、内、弐十弐人は、紺屋丁、新在家丁浜、少林寺浜、芦原丁、此四丁漁師の内より出す、弐人は、海船丁、蛤町、此弐丁漁師の内より出す」とある。神輿(みこし)舁(か)きは、堺海浜部の漁師が担ったことを記している。同様の記事は、「寺社役覚書」（『堺市史』五巻三六八頁）にもみえる。

続いて、「神輿渡御相済み弐丁ばかり跡（後）より、奉行供奉致し候、是は初入已後、奉行支配の内一度なり」とある。堺奉行は、担当与力らとともに七道小屋で見物したようだが、神輿が通過する時は小屋より下って下馬して拝礼した。また、奉行が交替して最初の住吉祭の年、奉行は神輿の後を供奉したことなども記している。

堺奉行は元禄九年二月から一五年一一月まで大坂町奉行の兼任となり廃止されている。元禄一六年の住吉祭は、新任の堺奉行である天野伝四郎富重が着任して初めての住吉祭であったため、この時は神輿の後を供奉したのであろう。なお、同様の記事は「（堺奉行所）年中行事」（『堺市史』五巻三三七頁等）にもみえる。

次に、寛政六年（一七九四）『住吉名勝図会』

に、「とりわけ大坂・堺の町々よりは地車、祇園囃、かさりてふちん（飾り提灯）、旗のほりにきらを尽す」とある。元禄期以降の大坂の発展により、大坂天満宮の天神祭などに数多くの地車が出されるようになり、堺でもその傾向が見られたようである。

続いて、「およそ泉州堺宿院より安立町・新家・天下茶屋・今宮・道頓堀にいたり、行程三里があいだ、社参の人ひしと立ちこみて錐を立つべき所もなし」と、まさに立錐の余地もない賑わいだった。

次に、寛政八年（一七九六）『摂津名所図会』巻一に、「六月晦日大祓、神輿開口に神幸す、開口とは堺の宿院なり、俗に御旅所といふ」とある。鎌倉時代の『住吉太神宮諸神事次第』に「開口御宿院頓宮」とあり、開口神社と宿院頓宮がかつては一体だったことを推測させてくれるが、江戸時代においてもこのように「開口とは堺の宿院なり」と記していることが、少し不思議である。

続いて、「夜に入れば神輿住吉に還幸、その時堺の地人・船長・漁師の類、手毎に炬を点じ、神輿を新大和橋北爪まで送る、数百人の炬、恰も白昼のごとし。これを西宮・灘・兵庫・須磨・明石の浦々、南は泉州貝塚・佐野・岡田よりこの火を的として神幸を拝するとぞ、この橋爪より大坂の地人御迎挑灯として、候屋敷、船持の賈人・水主・楫取の輩、数千の挑灯を照し、列をして酒機嫌に声を揚げ、神輿を迎へ奉る、これを住吉の火替といふ」とある。西は兵庫津・須磨・明石から南は佐野・岡田までが、神輿を送る松明を目当てに拝したという。

次に、文政六年（一八二三）改『（堺奉行所）年中行事』をみてみよう（『堺市史』五巻三三三頁）。まず、「六月廿四日、一つ、住吉御祓ねり物番付、惣会所に於いて惣代・職事立ち会い相改むる、書付御番所（堺奉行所）え二通持参す、一通は御用人中え当番与力差上候事」とある。堺の町衆による練り物の順番などを、惣会所で確認したのであろうか。

続いて、「一つ、前日七堂御小屋の見分に、地方下役・同心両人が垣外を召し連れ罷り越し候こと」とある。先述の『堺手鑑』に堺奉行らが見物したという七堂（七道）小屋を、前日に担当与力と同心が点検している。

●主な参照文献
小出英詞・黒田一充ほか編集・執筆「第二章、住吉祭史料集成」（『住吉祭・神輿渡御と堺』堺市地域文化遺産活性化実行委員会、二〇一七年）

住吉さんと太閤さん 第九回

――切幡寺の大塔――

就実大学講師　竹内　洪介

住吉大社と豊臣秀吉――どちらも古くから大阪で愛され、親しみを込めてそれぞれ「住吉さん」「太閤さん」と呼ばれた存在です。ここでは、江戸時代に流布した秀吉の伝記的資料を中心にして、そんな「住吉さんと太閤さん」の意外なかかわりを探ってみたいと思います。

大学院時代の指導教員は浄瑠璃の研究者でした。まさしく小粋を絵に描いたような先生で、蕎麦も打てれば釣りもでき、自宅の家庭菜園を耕す趣味人でした。特に好んだのがバイクです。よく四国八十八か所を回った話を伺ったもので、最近仄聞したところではご退職後にもう一度四国八十八か所を回られたそうです。回るだけでは飽き足らず名古屋まで進撃してそこでバイクを売り払って札幌に戻ってしまったそうですが、あれ、ということは岡山通りましたよね？　なんでお声がかりがなかったんだろう…。

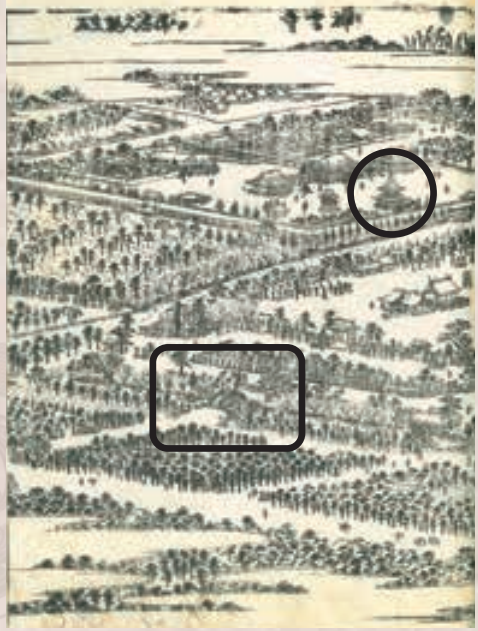
…さて、四国八十八か所というのは、ご存知の通り四国地方に点在する弘法大師（空海）所縁の八十八寺院を指します。これらの寺院はすべて中世以前に建立されたもので、現在の四国八十八か所遍路については、寛永十五年（一六三八）に大覚寺宮空性法親王が行った記録が最古とされます（石丸禎「『空性法親王四国霊場御巡行記』について――先行研究の検討と新発見の類本史料の射程――」参照。ただし『空性法親王四国霊場御巡行記』はあくまでも「現在の八十八か所に関する最古記録」であり、どうやら札所は戦国時代以前からある程度指定されていたようです）。すなわち近世前期以前にはすでにこれらの寺院は錚々（そうそう）たる伽藍を備えていたとみてよいわけですが、今回はその中でも古刹とし

て知られる切幡寺の大塔について取り上げます。

切幡寺は、徳島県阿波市の一隅にある切幡山の中腹、標高一五五メートル地点に位置しています。訪れたのは春のことでした。雨模様の境内に草木が青々と茂り、駐車場からは低い階段が列をなして山の中腹に横たわっていました。

奥に進むと狭い外階段があり、それを上ると開けた場所に出ます。そこにそびえるのがここに写真で示した大塔です。最近の考古学的調査では、明治初年にこの塔がこの場所に移設されるまでは極彩色の塔だったことがわかっています。今はすべてその色が拭われ、初重方五間、二重方三間という、天台宗の建築方式としては全国唯一の遺構として伝わっています。この大塔こそが今回「住吉さんと太閤さん」にかかわるものになっているのですが、それはいったいどういうことでしょうか。

→切幡寺の大塔。



→『摂津名所図会』巻之一、住吉郡。中央部に反橋が見える。

まず、この絵をご覧ください。江戸時代後期における住吉大社の景観を描いた『摂津名所図会』巻之一（寛政八年〈一七九六〉刊）です。中央部分に淀殿寄進の反橋（四角囲み部分。詳細は第四回「天下茶屋の伝説をめぐって（2）」参照）がありますね。今も昔も本社に行くにはその反橋を渡るのですが、この絵を見ると、ちょうど画面奥側にさらに別の建造物群があることがわかります。これが今は現存しない神宮寺の建造物群です。

さて、丸で囲んだところをよく見てください。なんだか切幡寺の大塔によく似ていませんか。それもそのはず、切幡寺の大塔

はもともとこの神宮寺に建てられていたものなのです。これはいったいどういうことでしょう。なぜ住吉の神宮寺塔が、切幡寺にあるのでしょうか。

ここに示した写真は、『重要文化財切幡寺大塔保存修理工事報告書』に掲載された、住吉神宮寺境内西塔の写真（東京国立博物館蔵）です。こうしてみると、冒頭に掲げた写真とほぼ同じものであることがわかります。その経緯については写真と同じく報告書に下記の通り示されています。

→神宮寺西塔画像（明治初期撮影、東京国立博物館蔵）

明治元年三月二八日、太政官は神仏判然を令達し、これに伴い神宮寺は廃寺となり、明治六年には教部省より旧神宮寺諸堂社の処分を命じられた。この頃東塔はすでに破損が著しかったようであるが、西塔は建物の状態が良かったので切幡寺が購入することとなった。明治一六年（一八八三）の「摂津国坐官幣大社住吉神社の図」（大阪市立博物館所蔵）では、すでに神宮寺の面影を残すものは何一つ残らず、跡地が畑地状に描かれている。

また、この西塔の由来については、このように説明されています。

慶長一一年（一六〇六）豊臣秀頼の命により片桐且元を奉行として、ようやく本格的な復興に着手した。神宮寺は慶長一二年に南大門・東塔・僧坊二棟などが四月頃に立柱し（新築する際に初めて柱を立て、その日を造作の事始めとして祝うことです：竹内注）、北西東の門・今主柱・石舞台・鐘楼などが年内に竣工したようで、西塔も同年四月十五日に法華・常行三昧堂とともに立柱している。／元和元年（一六一五）の大坂夏の陣では徳川家康が本陣を住吉に置いたこともあり、豊臣

方の兵が付近の民家に放火し住吉大社も本殿群より約三五〇m南方の神主居館や正印殿が焼失した。第一本殿も放火されたが、大過には至らなかったという。神宮寺の被災状況についての記録は無いが、本殿四棟は無事であったので、その北側に隣接する神宮寺も焼失は免れたと考えられる。したがって現在伝わる切幡寺大塔は、慶長一二年に立柱した神宮寺西塔であり、心柱銘文等にみられる「徳川秀忠元和年中建立」とは、立柱以降の工事が戦渦をぬって行われ、一二年を費やしてようやく完成に至ったものか、あるいは立柱して数年後に完成した建物を、秀忠が征夷大将軍となった後に補修を行って建立と称したと考えるのが妥当であろう。

以上、右の説明に倣うならば、西塔は豊臣秀頼の発願によって建立され、経緯は不明ながら徳川秀忠によって最終的な完成を見たものと言えます。なお、切幡寺にある重要文化財指定（昭和五十年）記念の案内板によれば、もともとこの塔は「秀吉の増進菩提のため」建立されたものとありました。秀頼が秀吉の追善供養を目的に建立した寺社は夥（おびただ）しくありますが、現代に残る多数の秀頼発願による寺社のうち、切幡寺大塔のように、四国に渡って移築されたものはほとんどありません。明治期に起こった神宮寺廃寺の影響とはいえ、いったいどうして、この大塔は海を渡ることになったのでしょうか。

従来、この点について先行諸説は何も示していなかったように思われますが、近年、切幡寺の調査活動の成果としてある史料が紹介されました（『得度山灌頂院 切幡寺』参照）。

徳川幕末、明治維新のこと成り、太政官『神仏判然令』を公付するや、廃仏毀釈の勢いは全国数万の寺院を打ち壊し廃寺となせり。この時、先に豊臣秀頼、秀吉追福のため、東西二基の塔を建立寄進せし大坂・住吉大社神宮寺もまたその難を免れずとの報いち早く耳にし給いし、当山中興第四十五世住職天祐上人、そこに残ってありし西塔を、かの足利氏の利生塔に代えんと決意し給いしか、明治六年これを買い受け当山に移築の工を起こす。然れども悲しい哉その業半ばにして遷化し給い、これが完成を見ることあたわず。法灯を継がれ給いし智湛上人、よく先師の遺志を全うし、明治十五年に至り遂にこの大業を成満し給いぬ。

この史料は平成十四年に切幡寺大塔を「平成の大修理」と号して修繕したときに、大平智叡第四十九世住職によって記された供養文です。近年の史料であり、しかも理由

自体は本文中で推察されているものですので確証はないのですが、「足利氏の利生塔」の代わりに神宮寺塔が移築されたのではないか、という説はなかなか面白いところがあります。この「足利氏の利生塔」とはいったい何でしょうか。最後にこの点を考えてみましょう。

ここでいう「足利氏の利生塔」とは、暦応五年（一三四二）に全国でもっとも早く、阿波国で唯一の利生塔として、室町幕府初代将軍足利尊氏の立案、その重臣細川和氏の主導によって、後醍醐天皇をはじめとする元弘以来の戦没者の慰霊と天下の泰平を祈願するために切幡寺に建てられたものです。利生塔は各国に造られ、いまなお現存するものもありますが、その中の代表的なものとして、京都の八坂の塔があります（現在の八坂の塔は足利義教の時代に再建されたものですが、前代と同じ塔跡に再建されたものと思われ、往時の姿をある程度残しているものと思われます）。室町幕府安定期には、細川氏と切幡寺が極めて親密な間柄にあったことが知られており、利生塔はその関係性を象徴するものであったと予想されるでしょう。しかし戦国時代に至って、切幡寺は長曾我部元親の四国統一に伴って兵火にさらされ、天正十年（一五八二）に本堂を残して全焼したとされます（以上、前掲『重要文化財切幡寺大塔保存修理工事報告書』参照）。この時利生塔も焼失したと考えられますが、結局再建されることはありませんでした。以上のような経緯を踏まえ、先ほどの供養文は利生塔の代わりに住吉大社の大塔が移されたのではないかと推察していることになります。なぜここで約四百年も昔に焼失した利生塔が話題に上るのでしょうか。

それを考えるために、天正十年に焼失した後の切幡寺復興の模様を確認してみましょう。『重要文化財切幡寺大塔保存修理工事報告書』によれば、元禄二年（一六八九）には利生塔の跡地に境内地が新たに設けられ、利生塔以外のほぼすべての建造物（仁王門・鐘楼・大日堂・鎮守・御影堂・中門・龍王祠堂など）が復興されていたことがわかります（同年成立『四国遍礼霊場記』参照）。さらに、寛政十二年（一八〇〇）刊『四国遍礼名所図会』に掲載された切幡寺鳥瞰図によれば、境内がかなり整備され、ほぼ現在の切幡寺と同じ状況に

→京都に置かれた利生塔（八坂の塔）。

諸堂が配置されていたことがわかります。切幡寺の復興は、大塔を除いて江戸時代に完了していたのです。そもそもが元弘の乱の際の慰霊を目的としたものですから、無理に大金を投じて復興する必要もなかったものと思われます。

一方、大塔移築に尽力したという天祐上人がこの大塔について言及した記録は残されていないようなのですが、この時に数百年ぶりに毎日の護摩供養が再興されていることがわかっています（前掲『得度山灌頂院 切幡寺』参照、以下同）。切幡寺で行われる護摩供養とは特に天下泰平・国家安全を祈念するものを指し、政情不安定であった明治最初期には必要とされるものであったことが推察されます。足利氏の利生塔も安国寺とともに戦没者を弔いつつも天下泰平を祈願するものであったことが、天祐上人の目的と合致しています。折から廃仏毀釈の風が吹き荒れ、わずか五円数十銭（『値段史年表 明治・大正・昭和』に載る明治元年時点での嫁入り道具・桐箪笥の相場がおよそ四円五十銭であったことを考えると、考えられないほどの安値です）で払い下げられた由緒ある大塔を購入し、上人が豊臣風に塗られた極彩色の外装を拭い去って八坂の塔に代表されるような質朴な外装に改めたのも、足利氏の利生塔を想起してのことと考えれば辻褄が合います。

以上、今回は阿波切幡寺の大塔を切り口に考察してきました。次回は慶長元年に詠まれた秀吉の夢想連歌について取り上げます。慶長元年と言えば朝鮮出兵。秀吉はいったいどのような歌を詠み、それはどのように住吉さんに関わるのでしょうか。

参考文献

・『重要文化財切幡寺大塔保存修理工事報告書』（文化財建造物保存技術協会、二〇〇一年）
・『得度山灌頂院 切幡寺』（『四国八十八箇所霊場と遍路道』調査報告書21、二〇二三年）
・週刊朝日編『値段史年表 明治・大正・昭和』（朝日新聞社、一九八八年）
・石丸禎「『空性法親王四国霊場御巡行記』について――先行研究の検討と新発見の類本史料の射程――」（『佛教大学大学院紀要 文学研究科篇』第四六号、二〇一八年）
・藤原義一・中村昌生・小野木重勝「元和造営の住吉神宮寺西塔について」（『日本建築学会論文報告集』第六十三号、一九五九年）

付記

本稿は、JSPS科学研究費（22K20041）の助成を受けたものです。

全国住吉神社の紹介

広野住吉神社

【鎮座地】
兵庫県三木市志染町広野
五丁目一八〇

私たちの広野住吉神社は、播州三木市の志染町、広野地区の氏神さまです。神社は住吉大社と同じく上筒男命・中筒男命・底筒男命・気長足姫尊をお祭りしています。

伝承では、元治元年（１８６４）に、加東郡市場村太郎太夫の開墾主であった近藤文蔵が、住吉大社から神様をお分けいただき、広野新開の守護神としたことに始まるそうです。以来、当地の住民の篤い崇敬を集めています。

毎年10月には秋祭りをおこない、松下睦紀宮司（御坂神社）さまに祭典をご奉仕いただき、子供や若者たちによる布団太鼓が地区内を巡行しています。今年はご鎮座百六十年の節目にあたり、宵宮祭には住吉大社より小出権禰宜さまにご参列をたまわりました。

近年は子供たちも少なくなり、コロナ禍による行事の中断もあって、お祭りの継承に心配もしていました、総代の皆様をはじめ住民のご尽力によって、今年も盛大に秋祭りを実行できたことに安堵しております。私どもの故郷の神様とお祭りをこれからも盛り立ててゆきたいと思います。

広野住吉神社　責任総代　前田　明

《奉納品紹介》

令和6年9月21日 末吉康三郎様 奉納

大阪市平野区の末吉康三郎氏所蔵の絵画が奉納されました。絵画は津守国福（つもりくにとみ）（1800～68）の自筆による画軸で、山里に月を描きます。国福は江戸後期の第73代住吉神主で和歌や書画に堪能でした。本作品に「従三位国福」の署名があり、従三位に叙せられた天保13年（1842）から正三位に叙せられる慶応元年（1865）までの間に画かれた作品と思われます。

奉納者は平野七名家の一つ、西末吉家の分家にあたり、中世以来の伝統を守り、現在も住吉祭において献花式をご奉仕いただいている旧家です。当社と同家の関係性から、当時の住吉神主から直接に贈呈されたものと想像される作品です。

社務日誌抄（令和六年五月から一〇月分まで）

令和六年（二〇二四年）

五月

一日　**朔日祭・全国弓道大会奉告祭**、神武宮司以下奉仕。**第七三回住吉大社全国弓道大会**（住吉大社全国弓道大会実行委員会・大阪府弓道連盟主催、（公財）全日本弓道連盟・大阪府・毎日新聞社・全日本弓道連盟近畿地域連合会・（公財）住吉名勝保存会後援）、弓馬術礼法小笠原教場第三一世宗家 小笠原清忠氏・大阪府弓道連盟会長 砂口勝紀氏以下参列、小笠原清基氏以下蟇目奉射奉仕。【団体優勝】〈女子〉愛媛県（西内愛梨・坂東亜美・瀧水幸虹）、〈男子〉長野県（保科良介・小島樹・小田切祐典）。【個人優勝】〈女子〉三浦菜月、〈男子〉池下大翔。卯の花苑、開園（三一日迄）。辞令：神楽女 福西永望、神楽女長を命ずる。八大龍王神八江聖団総裁 出村龍日氏夫妻参拝。

二日　墨江小学校校外学習写生会。

三日　**卯之葉神事**、神武宮司以下奉仕。舞楽：天王寺楽所雅亮会楽監 藤原憲氏以下、献茶：住吉大社茶道部 宮浦宗正氏・岩前宗房氏以下、献香：香道閑院流家元 福井北勝洞氏以下各奉仕。総代 西本昌道氏代理、（公財）住吉名勝保存会理事長 高野伸生氏、住吉踊保存後援会会長 久保道伸氏以下参列。奉納舞楽「振鉾・迦陵頻・登天楽・北庭楽・長慶子」（天王寺楽所雅亮会）。奉納能「翁面掛式」他（すみよし反橋能実行委員会委員長 氏田耕吉氏）。

四日　**初辰大祭・楠珺社例祭**、加藤権宮司以下奉仕。

五日　すみよし博覧会「レンゲdeすみ博」（五月殿・御田）。一寸法師の碑奉納除幕式、岡本直之氏・岡本佐和子氏奉納。

七日　一万人のお宮奉仕参拝、清掃奉仕。神道青年会理事総会、福山権禰宜出席。

八日　神道青年会定時総会、福山 古舘権禰宜出席。（公財）美術院、神宝「古代神像」三躯（市指定文化財）修復返還。

一〇日　**市戎大国社月次祭**、岡権宮司以下奉仕。防災設備更新工事会議、高階禰宜・倉智権禰宜出席。

一一日　BS大阪第一二三団育成会総会、加藤権宮司・福山 西角小山手 古舘権禰宜出席。住吉大社前郵便局、清掃奉仕。

一二日　フランス・ポナン、クルーズツアー参拝。（一財）住吉村常盤会評議員会、小出権禰宜出席。東粉浜連合青壮年団春祭り（東粉浜小学校）武田権禰宜代参、御祓講獅子奉仕。

一三日　**大海神社月次祭**、小出権禰宜奉仕。塩谷栄一氏、絵画奉納。住吉区更生保護女性会講話、小出権禰宜講師。

一五日　**十五日祭**、神武宮司以下奉仕。宮城県塩釜市志波彦神社鹽竈神社権宮司 大瀧博司氏以下一五名参拝。賀茂御祖神社賀茂祭、岡権宮司参列。なにわ七幸会総会、西角権禰宜出席。

一六日　神社庁第九支部長 堤太郎氏以下一五名参拝。同定例総会、岡権宮司・倉智 滝沢権禰宜出席。

一七日　**浅澤社例祭**、武田権禰宜以下奉仕。**新宮社例祭**、坂野権禰宜以下奉仕。髙橋知史氏常任総代就任依頼、神武宮司・高階禰宜訪問。（独）造幣局理事長 後藤健二氏・住吉税務署署長 小林修氏来社。

一九日　御田植神事御稔女植女習礼、若柳吉翔氏以下奉仕。安立地区三親会総会、神武宮司・加藤 岡権宮司・万力禰宜・庄司権禰宜出席。粉浜まつり（北粉浜小学校）武田権禰宜代参。同ウォークラリー、反橋付近にて実施。

二〇日　**海上交通安全祈願祭**、岡権宮司以下奉仕。能面「翁・黒式之尉」（坂井孝氏作）奉納式、すみよし反橋能実行委員会奉納。防災設備更新工事現場打合、高階禰宜・倉智権禰宜応対。

二一日　（公財）住吉名勝保存会理事会、加藤権宮司出席。

二二日　豊中市服部住吉神社宮司 田村勝男氏・同稲荷講講長 荒木秀義氏以下参拝。志波彦神社鹽竈神社参拝（第二班）。神社本庁表彰式・同祝賀会（明治記念館）神武宮司・岡権宮司出席、高階禰宜随行。

二三日　青葉会総会（明治記念館）神武宮司・岡権宮司出席、高階禰宜随行。世界切削工具会議二〇二四（吉祥殿）一八〇名

夜間参拝。

二四日 **御文庫曝書**、日本書籍出版協会大阪支部・大阪出版協会・大阪書林御文庫講有志奉仕。

二六日 おおさか元気プロジェクト境内使用。

二七日 住吉大社セミナー「落語にみる住吉―上方落語の歴史―」落語家 桂文我氏講演。住吉自衛消防協議会、高階禰宜出席。

二八日 **浅澤社月詣**、高階禰宜奉仕。住吉祭後援会正副会長会議、神武宮司以下九名出席。吉祥殿インバウンドフェア、NHK・ベイコム・読売新聞取材。

二九日 ㈶浪速学院理事会評議員会、神武宮司出席。静岡県磐田市矢奈比賣神社宮司 久野隆氏夫妻参拝。

三〇日 住吉大社会計監査会、責任役員監事 太田重彦氏・山中諄氏、専任会計士 山下由美子氏・小島康秀氏、神武宮司以下六名出席。東大阪市若江鏡神社権禰宜 故奥野有利氏通夜祭、神武宮司以下神職弔問。

三一日 **献茶式**、表千家 左海大宗匠以下奉仕。定例清掃。職員会議。

六月

一日 **朔日祭**、神武宮司以下奉仕。**貴船社例祭**、万力禰宜以下奉仕。住吉大社前郵便局、清掃奉仕。表千家不審菴・半床庵(献茶式御礼)高階禰宜・小山手権禰宜訪問。館友会大阪支部総会、加藤権宮司以下七名出席。東粉浜小学校運動会、武田権禰宜代参。住吉中学校第一七期同窓会、小出権禰宜講師。吉祥殿「住吉ヨガ」催行(神館)。院友会大阪支部総会、星野権禰宜出席。BS団会議、福山 鈴木権禰宜出席。

三日 **神功皇后正辰祭**(狭城盾列池上陵)、神武宮司以下職員六二名参列。神社庁役員会、岡権宮司出席。

四日 兵庫県姫路市射楯兵主神社宮司 西本和俊氏・同総代 田中種男氏以下三〇名参拝。

五日 神功皇后御陵参拝(第二班)岡権宮司以下職員六六名参拝。(一社)楠公研究会会長 山下弘枝氏以下参拝。シニア自然大学校講座、小出権禰宜講師。

六日 三稜中学校職場体験学習四名受入(翌日迄)。大阪国学院講師協議会、岡権宮司出席。日本モンゴル文化経済交流会、宮嵜権禰宜出席。

七日 桂米團治氏・三林京子氏来社、顕彰碑建立打合。

八日 **卯之日祭**、岡権宮司以下奉仕。東粉浜幼稚園夏まつり、武田権禰宜代参。放送大学面接授業、小出権禰宜講師。

九日 **初辰祭**、岡権宮司以下奉仕。楠公祭(日本学協会主催)。物部守屋公墓前祭、岡権宮司参列。神S協理事役員会、中野禰宜出席。山形市里之宮湯殿山神社、小出権禰宜参拝。

一〇日 **市戎大国社月次祭**、岡権宮司以下奉仕。清水みなと祭り実行委員会実行委員長 平岡新氏以下八名参拝。故葦津泰國氏お別れの会(乃木会館)神武宮司・加藤権宮司参列、小山手権禰宜随行。草薙会近畿支部総会、万力禰宜・附柴権禰宜出席(翌日迄)。東北六県神道青年協議会錬成研修会(山形県鶴岡市)、小出権禰宜講師。

一一日 英真学園高等学校インターンシップ三名受入。山形県鶴岡市出羽三山神社湯殿山本宮、小出権禰宜参拝。

一二日 責任役員会・常任総代会・総代会、責任役員 太田重彦氏以下四名、常任総代 北村英一郎氏以下三名、総代 古武一成氏以下八名、神武宮司以下出席。観光庁補助多言語化事業会議、河野権禰宜出席。

一三日 **大海神社月次祭**、小出権禰宜奉仕。御田植神事習礼。御田代掻、御田講奉仕。アサヒ飲料販売㈱大阪南支社、飲料奉納。

一四日 **御田植神事(重要無形民俗文化財)**、神武宮司以下奉仕。御田植神事保存会・御田講(講元 濵田孝氏)・住吉踊保存後援会(会長 久保道伸氏)・武者行事保存会(会長 角家元二氏)・田植踊保存会(代表 西山経代氏)・大阪供奴保存会(会長 出野進氏)、植女御稔女世話人(代表 若柳吉翔氏)・稚児(世話人 小西國子氏・協力 帝塚山学院幼稚園)・住吉大社奏楽部(世話人 高橋昭人氏)等各奉仕。(一財)住吉村常盤会・(公財)関西大阪二一世紀協会、各助成。天下茶屋小学校写生会、境内使用。東洋きもの専門学校 授業、境内使用。神武宮司以下参籠。

一五日 **天皇皇后両陛下英吉利国御渡航行幸啓安泰祈願祭・十五日祭**(臨時中祭)神武宮司以下奉仕。**八所社例祭**、小出権禰宜以下奉仕。社報『住吉っさん』第四二号本日付発行。

一六日 東粉浜体育祭、武田権禰宜代参。

一七日 第三八回神道講演全国研修近畿大会(当社開催、一九日迄)神武宮司挨拶、加藤権宮司講演、小山手 古舘権禰宜参加。近畿地区中堅神職研修(滋賀県)河野 進藤 福山権禰宜参加(二一日迄)。神社庁教化委員会、岡権宮司出席。

一八日 十八日会(伏見稲荷大社)神武宮司出席、高階禰宜随行。MBS毎日放送「土曜のあさはほめるちゃん」取材撮影。

二〇日 **海上交通安全祈願祭**、高階禰宜以下奉仕。大阪市連合防火管理協会支部長会、岡権宮司出席。

二二日　宿院頓宮崇敬会大祭発会一〇周年記念事業、摂泉堺郷土史研究所所長 吉田豊氏講演、神武宮司・岡権宮司出席。社叢学会シンポジウム「都市公園と社叢」(吉祥殿)加藤権宮司挨拶、小出権禰宜講師。

二三日　賀茂別雷神社田中名誉宮司長老敬称と髙井宮司就任を祝う会、神武宮司出席、高階禰宜随行。

二四日　住吉大社セミナー「江戸時代の神職と神道思想」皇學館大学教授 松本丘氏講演。

二五日　愛知県重要文化財所有者連絡協議会講演会、小出権禰宜講師。

二六日　神社庁定例協議員会、岡権宮司出席。

二七日　大阪府文化財センター評議員会、神武宮司出席、小山手権禰宜随行。神社庁第九支部役員会、岡権宮司・倉智権禰宜出席。

二八日　**浅澤社月詣**、高階禰宜奉仕。市戎大国講参拝旅行(兵庫県淡路市伊弉諾神宮他)川畑禰宜以下同行。住吉祭警備合同打合会、神武宮司以下出席。住吉警察署協議会、武田権禰宜出席。神職並神楽女採用選考。

二九日　職員会議。

三〇日　**大祓**、神武宮司以下奉仕。定例清掃。御祓講獅子会議、万力禰宜・西角 古舘権禰宜出席。帝塚山派文学学会総会、小出権禰宜出席。

七月

一日　**朔日祭**、神武宮司以下奉仕。住吉大社責任役員、太田重彦氏に代わり小島康秀氏就任。住吉税務署署長 小林修氏以下来社。住吉警察署住吉祭陳情、地域住民代表者・小出 武田権禰宜訪問。

二日　**卯之日祭**、加藤権宮司以下奉仕。

三日　**初辰祭**、岡権宮司以下奉仕。

四日　大阪国学院スクーリング、祭式助教 岡権宮司(七日迄)、禊錬成助教 万力禰宜(五日迄)助勢。住之江警察署住吉祭陳情、地域住民代表者・小出権禰宜以下訪問。

五日　第一本宮荒垣修繕工事。吉祥殿「住吉七夕ナイト」催行(神館、七日迄)。

六日　住吉大社前郵便局、境内清掃奉仕(翌日迄)。

七日　**星宮例祭**、万力禰宜以下奉仕。住吉祭御神酒講献酒打合会、加藤権宮司・中野禰宜・庄司 附柴権禰宜出席。

八日　住吉大社セミナー「源氏物語のなかの住吉」京都女子大学名誉教授 八木意知男氏講演。中堅神職研修(神宮道場)宮嵜権禰宜参加(一二日迄)。

一〇日　**市戎大国社月次祭**、加藤権宮司以下奉仕。

一一日　住吉商業高等学校インターンシップ一〇名受入(一二日迄)。西日本旅客鉄道㈱代表取締役社長 長谷川一明氏以下参拝。

一二日　誕生石新門扉奉納奉告祭、神武宮司以下参列、島津家第三二代 島津修久氏・三三代島津忠裕氏奉納。順天学園 渡辺孝蔵氏来社。

一三日　**大海神社月次祭**、小出権禰宜奉仕。住吉斎女宣状式、島野尚子氏委嘱。生根神社宮司 堤太郎氏来社。

一四日　**港住吉神社宵宮祭**、加藤権宮司以下奉仕。

一五日　**十五日祭**、神武宮司以下奉仕。**港住吉神社例祭**、加藤権宮司以下奉仕、神武宮司以下参列。**神輿洗神事**、岡権宮司以下奉仕。神武宮司・住吉区長 橘隆義氏・住之江区長 藤井秀明氏以下参列。住吉漁業協同組合・住吉神輿会・住吉祭太鼓会奉仕。東粉浜神輿会反省会、小出 庄司権禰宜出席。

一六日　神仏霊場会 神仏合同国家安泰世界平和祈願祭並総会(賀茂御祖神社)加藤権宮司参列出席、小山手権禰宜随行。高砂神社夏祭、北側 藤澤神楽女助勢。中堅神職研修(神宮道場)倉智権禰宜参加(二〇日迄)。

一七日　神社結婚式振興会講習会(神田明神)岡権宮司・石橋主事出席。大阪府高齢者大学校、小出権禰宜講師。

一八日　十八日会(湊川神社)神武宮司出席、高階禰宜随行。

一九日　帝塚山学院高等学校ダンス部、三大会出場祈願祭(※第三六回全日本高校ダンスフェスティバル日本女子体育連盟会長賞、第一七回日本高校ダンス部選手権全国大会ビッグクラス優勝、第一二回全国高等学校ダンス部選手権三位)。住吉公園歴史探望編集会議、小出権禰宜出席。

二〇日　**海上交通安全祈願祭**、加藤権宮司以下奉仕。住之江区制五〇周年記念祝賀会(吉祥殿)神武宮司出席。BS団行事肝試し、境内使用。

二一日　**斯主社例祭**、川畑禰宜以下奉仕。

二二日　大阪船主会 海上安全祈願祭、神武宮司以下奉仕。同会長安藤美和子氏・近畿運輸局局長 岩城宏幸氏・大阪海上保安監部監部長 宮本勝通氏以下参列。㈻浪速高等学校 伊勢修養学舎禊行事、万力禰宜講師(二四日迄)。

二三日　住吉税務署署長 前田仁見氏以下来社。

二四日　明治神宮名誉宮司 故外山勝志氏明治神宮葬、神武宮司弔問、武田権禰宜随行。

二五日　相撲大会抽選会、近畿高等学校体育連盟相撲部役員立会。大阪府相撲連盟理事長 山下雅史氏以下一〇名参加。

二六日　谷本早苗氏来社。神宮研修所神社実習受入(八月三日迄)。

二七日　堺大魚夜市成功安全祈願祭、同実行委員長 久保照男氏以下参拝。

二八日　**浅澤社月詣**、高階禰宜奉仕。大鳥大社神幸祭、岡権宮司参列。

三〇日　**住吉祭宵宮祭・神輿遷霊**、神武宮司以下奉仕。常任総代 北村英一郎氏以下役員、住吉祭後援会会長 中野紀久雄氏以下来賓・神輿会・奉仕者参列。山蔭流庖丁式奉納。花神輿・布団太鼓・子供神輿瑞垣内奉舁。宮司以下参籠。

三一日　**例大祭・夏越祓神事(府指定無形民俗文化財記録選択)**神武宮司以下奉仕。常任総代 北村英一郎氏以下役員、大鳥神社宮司 水無瀬忠俊氏以下来賓・地区代表者・夏越女保存会(会長 長田淳子氏)・各奉仕者参列。

八月

一日　**住吉祭 献花式**、平野坂上七名家当屋 末吉洋子氏奉仕。**朔日祭**、神武宮司以下奉仕。**神輿渡御、頓宮祭・飯匙堀祓神事(堺市指定無形民俗文化財)**、神武宮司以下奉仕。住吉祭後援会会長 中野紀久雄氏以下役員・供奉員、神輿・花神輿等輿丁奉仕。堺市市長 永藤英機氏・宿院頓宮総代長 島野容三氏以下頓宮祭参列。八坂神社三若神輿会 矢野隆弘氏以下来社。

二日　**人形流**、小出権禰宜以下、堺市出島漁業協同組合奉仕。

三日　BS団会議、西角 奥野権禰宜出席。

四日　港住吉神社反省会、加藤権宮司・名村権禰宜出席。

五日　御文庫図書調査、就実大学講師 竹内洪介氏以下閲覧。

六日　住之江警察署(住吉祭御礼)加藤権宮司・武田権禰宜訪問。岐阜市伊奈波神社権禰宜 山田誠也氏以下九名参拝。

七日　**卯之日祭**、加藤権宮司以下奉仕。**薄墨社例祭**、武田権禰宜以下奉仕。住江織物㈱代表取締役社長 永田鉄平氏以下参拝。神楽女他新規採用現場説明会。

八日　**初辰祭**、加藤権宮司以下奉仕。

九日　升の市実行委員会打合会。大阪国学院スクーリング、禊錬成助教 万力禰宜助勢(翌日迄)。

一〇日　**市戎大国社月次祭**、岡権宮司以下奉仕。三重県津市久居八幡宮禰宜 ウィルチコ・フローリアン氏来社。吉祥殿「住吉大社鉄道フェア」催行(一五日迄)。

一一日　安立神輿会反省会、神武宮司・加藤権宮司・小出権禰宜以下出席。

一三日　**大海神社月次祭**、小出権禰宜奉仕。大鳥大社例祭、岡権宮司参列。

一五日　**十五日祭**、加藤権宮司以下奉仕。大阪護國神社終戦詔書奉戴の日祭、加藤権宮司参列、武田権禰宜随行。amazonプライムビデオ、ドラマ撮影。

一六日　大阪府神道人親善大会、福山 小山手権禰宜・大久保 古澤神楽女参加。

一八日　墨江連合社南町会、境内使用。

二〇日　**海上交通安全祈願祭**、岡権宮司以下奉仕。防災防犯設備工事打合会、大阪府文化財保護課他来社。

二一日　岐阜市伊奈波神社禰宜 日比野悌明氏以下九名参拝(第二班)。神社庁第九支部祭式研修会(神館)岡権宮司・高階禰宜・小出権禰宜以下参加。スポーツニッポン新聞「ベストショットJr」山中一輝氏撮影。

二二日　大阪国学院スクーリング、祭式助教 岡権宮司、禊錬成助教 万力禰宜助勢(二四日迄)。

二五日　館友会全国大会(三重県伊勢市)神武宮司・加藤権宮司・高階禰宜・小山手 古舘権禰宜出席。堺神輿会反省会、小出権禰宜出席。

二六日　神S協理事役員会、中野禰宜・山下権禰宜出席。

二八日　**浅澤社月詣**、高階禰宜奉仕。労務管理研修会、河野権禰宜参加。

二九日　皇學館大学階位検定講習会、小出権禰宜講師(翌日迄)。

三一日　台風一〇号接近に備えて終日閉門。

九月

一日　**朔日祭**、神武宮司以下奉仕。**楯社例祭**、逸見権禰宜以下奉仕。**初辰祭**、坂野権禰宜以下奉仕(※台風接近のため初辰まいりは二の辰に変更)。定例清掃。辞令：神武徳彦を権禰宜に任ずる。

二日　献詠俳句選者会、選者 古賀しぐれ氏 森田純一郎氏 小杉伸一路氏選考。伊勢山皇大神宮宮司 阿久津裕司氏以下三名参拝。

三日　ハラスメント研修会(吉祥殿)加藤権宮司以下参加。

五日　献詠短歌選者会、選者 安田純生氏 佐沢邦子氏選考。堺市文化財課長 中村晶子氏以下来社。大阪国学院スクーリング、禊錬成助教 万力権禰宜助勢(翌日迄)。大領中学校職場体験学習六名受入(翌日迄)。

六日　大阪シニア大学講座、小出権禰宜講師。

七日　御祓講獅子会合、逸見権禰宜以下出席。BS団会議、西角権禰宜出席。伊勢寮歌祭、加藤権宮司出席(翌日迄)。大阪国学院スクーリング、祭式助教 岡権宮司助勢(翌日迄)。

八日　㈱小西美術工藝社取締役副社長 横田敏行氏来社。

九日　**志賀神社例祭**、小出権禰宜以下奉仕。(公財)日本相撲協会(手数入奉納式依頼)岡権宮司・武田権禰宜訪問。

一〇日　**市戎大国社月次祭**、加藤権宮司以下奉仕。皇學館大学階位検定講習会、小出権禰宜講師(翌日迄)。

一一日　近畿式内社を顕彰する会、岡権宮司出席。

一二日　**卯之日祭**、岡権宮司以下奉仕。元東京造形大学教授 星野鈴氏来社。

一三日　**大海神社月次祭**、小出権禰宜奉仕。**初辰まいり(二の辰)**。乃木神社例祭、加藤権宮司参列。㈱ファイブフォックス前代表取締役会長 故上田稔夫氏偲ぶ会、神武宮司参列、高階禰宜随行。

一五日　**十五日祭**、神武宮司以下奉仕。観月祭舞楽習礼。

一六日　御祓講獅子、東粉浜敬老大会出演。

一七日　**観月祭**(産経新聞社後援・末廣堂協賛)神武宮司以下、天王寺楽所雅亮会、住吉踊保存後援会、住吉大社茶道部、選者 佐沢邦子氏、各奉仕。責任役員以下参列者・各奉仕団体・献詠選者・入選者・産経新聞大阪本社 北村昭宏氏以下参列。短歌：天位「明日朝の下拵へに菜を洗ふわが手の平に遊ぶ月影」槇島茂氏、地位「縁側に『おーい』と呼べば犬の来る妻より先に月の出を見に」若山巌氏、人位「月映ゆる水面をボラが音立ててつぎつぎ飛べりふるさとの海」城富貴美氏。俳句：天位「野のかたちそのまま束ね月の供華」西坂三穂子氏、地位「万象を青く鎮めて闌くる」井部和夫氏、人位「伶人の一管よりの月の宴」加藤あや氏。舞楽「振鉾・萬歳楽・登天楽・長慶子」。

一八日　**献茶式**、裏千家 伊住宗禮宗匠以下奉仕。神社庁祖霊殿秋季合祀慰霊祭習礼、岡権宮司参加。リコー事務所設備見学、中野禰宜・武田権禰宜以下出向。住吉踊長狭支部 青山佐美幸氏、来社奉賛。テレビ大阪「おとな旅あるき旅」三田村邦彦氏・紅ゆずる氏撮影(一〇月一九日放送)。

一九日　**児安社例祭**、逸見権禰宜以下奉仕。神社庁祖霊殿秋季合祀慰霊祭助祭員、岡権宮司奉仕。

二〇日　**海上交通安全祈願祭**、岡権宮司以下奉仕。大阪府従業員組合慰霊祭、加藤権宮司以下奉仕。

二一日　出雲大神宮宮司 岩田昌憲氏以下二名来社。平野郷坂上七名家 末吉康三郎氏夫妻、旧社家津守国福筆画軸奉納。車いすde住吉大社参拝プロジェクト代表 黒田健氏以下八二名参拝。

二二日　**皇霊祭遥拝**、神武宮司以下奉仕。**招魂社秋季例祭**、加藤権宮司以下奉仕。神馬塚参拝、神武宮司・加藤 岡権宮司参拝、高階禰宜随行。総代 西本昌道氏来社。

二四日　神楽女・主事補採用選考。中堅神職研修(神宮道場)武田倉智権禰宜参加(二八日迄)。吉祥殿インバウンドフェア、夜間参拝等催行。

二五日　天下茶屋中学校職場体験学習八名受入(翌日迄)。神社庁神宮大麻暦頒布始奉告祭、岡権宮司参列。神S協理事役員会、中野禰宜・山下権禰宜出席。

二六日　立正佼成会大阪教会西南支部、清掃奉仕。HSCマイスターゼミナール講演会、小出権禰宜講師。

二七日　宿院頓宮夏祭会計報告会、岡権宮司出席。東希芙欄奈氏来社奉賛。SIHDA Osaka二〇二四(吉祥殿)一七〇名夜間参拝。

二八日　**浅澤社月詣**、高階禰宜奉仕。

二九日　日本吟道奉賛会大阪地方本部七〇名参拝、吟詠吟舞奉納。

三〇日　定例清掃。職員会議。

一〇月

一日　**朔日祭**、神武宮司以下奉仕。木村拓哉氏、ユーチューブ「木村さ～～ん」(木村拓哉の大阪ライブ翌日に突撃したら…)境内撮影、岡権宮司出演。

二日　神社庁第六支部敬神婦人会会長 石袋礼子氏以下六〇名参拝。同研修会、小出権禰宜講師。神社庁教化委員会会議、岡権宮司出席。住吉公園歴史探望編集会議、小出権禰宜出席。神道青年会理事会、福山権禰宜出席。

三日　大阪国学院スクーリング、祭式助教 岡権宮司、禊錬成助教 万力禰宜助勢(五日迄)。

五日　義信流拳法会 故坂本善次朗会長顕彰碑奉納奉告祭及除幕式、今西喜孝氏以下一〇名参列。桂文我落語会特別座談会、小出権禰宜出演。

六日　**卯之日祭**、加藤権宮司以下奉仕。第一八回升の市住吉寄席、桂南光氏・桂米團治氏・桂八十八氏・桂りょうば氏登壇。神S協総会並創立五〇周年記念式典、中野禰宜出席。

七日　**初辰祭**、岡権宮司以下奉仕。生間流式庖丁奉納式、神武

権禰宜以下、生間流三〇代家元 小西正保氏以下奉仕。神社庁第九支部会議、岡権宮司・武田 倉智権禰宜出席。

八 日 神社庁関係者大会実行委員会、岡権宮司出席。

九 日 **大歳社例祭**、武田権禰宜以下奉仕。シニア自然大学校サークルすばる講座、小出権禰宜講師。

一〇日 **市戎大国社月次祭**、川畑禰宜以下奉仕。愛知県犬山市大縣神社例祭、神武宮司参列、高階禰宜随行。安全衛生管理研修会、田岡主事補参加。

一二日 住吉幼稚園運動会、岡権宮司参加。

一三日 **大海神社例祭**、岡権宮司以下奉仕。大海協議会会長 北村泰規氏・大阪市漁業協同組合代表理事組合長 北村英一郎氏・大海神社龍宮講員各参列。兵庫県三木市広野住吉神社秋祭、小出権禰宜参列。

一四日 生根神社秋季例大祭神輿巡行、万力禰宜・庄司権禰宜助勢。

一五日 **十五日祭**、神武宮司以下奉仕。**おいとしぼし社秋季例祭**、高階禰宜以下奉仕。

一六日 **龍社例祭**、逸見権禰宜以下奉仕。大阪ウィークEXPO二〇二五春の陣説明会、神輿会役員・神武宮司・加藤 岡権宮司他出席。墨江地域学級、小出権禰宜講師。

一七日 **神宮神嘗祭遥拝**、**御田刈式**、**宝之市神事**、神武宮司以下、御田講 濵田孝氏・藪野雄史氏、東洋きもの専門学校 田中昭子氏、升の市実行委員長 矢吹拓也氏、市女：丸山莉音氏以下五名、各奉仕。升の市催行(絵馬殿)。住吉寄席落語御礼、武田権禰宜訪問。

一八日 十八日会(大阪天満宮)神武宮司出席、高階禰宜随行。立浪部屋木竜皇関 十両昇進祝賀会(吉祥殿)神武宮司出席。港住吉神社氏子総代会参拝旅行(京都府宇治市宇治神社)加藤権宮司・名村権禰宜同行。大阪国学院スクーリング、祭式助教 岡権宮司、禊錬成助教 万力禰宜助勢(翌日迄)。

一九日 **后土社例祭**、倉智権禰宜以下奉仕。関西北前船研究交流セミナー宮津、小出権禰宜参加(翌日迄)。東粉浜幼稚園運動会、武田権禰宜代参。すみよし博覧会催行、境内使用。

二〇日 **海上交通安全祈願祭**、加藤権宮司以下奉仕。住吉大社宝之市神事奉納 学生招待相撲大会(第八五回近畿高等学校、第九回大阪府中学生、第二回大阪府小学生招待相撲大会)【高校生】団体優勝：箕島高校B、個人優勝：井上力也氏(箕島高校)、【中学生】優勝：森田渉太氏(大東市)、【小学生】四年生優勝：片桐叶樹氏(守口市)、五年生優勝：河村清一郎氏(堺市)、六年生優勝：阿部聡太郎氏(堺市)。第一二回住吉大社浪曲寄席(住吉武道館)京山幸枝若氏・真山一郎氏・松浦四郎若氏出演。大阪護國神社秋季例大祭、武田権禰宜参列。大阪国学院かつおぎ会K講座祭式講習会、岡権宮司講師。地活協東粉浜行事、境内使用。

二一日 **船玉神社例祭**、中野禰宜以下奉仕、神武宮司・㈱商船三井 富山茂氏参列。京都府亀岡市出雲大神宮社殿創建一三一五年例大祭・御本殿拝殿前石玉垣竣工奉納奉告祭、岡権宮司参列、小山手権禰宜随行。住吉大社セミナー「信じがたい神社伝承の読み解き方」大阪天満宮文化研究所所長 高島幸次氏講演。清明学院高等学校職場体験学習五名受入。

二二日 東京都神社庁港区支部支部長 瀧雅人氏・港区神社総代会会長 出野泰正氏以下一五名参拝。さいたま市調神社宮司 吉田正臣氏・同総代会会長 小谷野堅太郎氏以下三三名参拝。

二三日 御田稲刈り、御田講奉仕。㈶順天学園理事長 渡辺孝藏氏・日本数学史学会運営委員委員長 小寺裕氏来社。前責任役員 太田重彦氏(責任役員退任功労記念品贈呈)神武宮司・高階禰宜訪問。

二四日 皇學館中学校研修旅行、教頭 山形達哉氏以下二〇名参拝。住之江中学校職場体験学習二名受入(翌日迄)。奈良シニア大学講座、小出権禰宜講師。NHKラジオ第一放送「関西ラジオワイド」、「住吉かかしプロジェクト」について収録、岡権宮司出演。IGLTAグローバルコンベンション二〇二四(吉祥殿)五〇名夜間参拝。

二七日 **浅澤社月詣**、高階禰宜奉仕。(一財)住吉村常盤会理事長 小島康秀氏以下一五名村内安全祈願参拝。和歌山県和歌山市玉津島神社 和歌の聖地・和歌の浦 誕生一三〇〇年記念大祭、小出権禰宜奉仕。若柳吉翔舞踊公演(楽屋見舞)庄司権禰宜訪問。

二八日 鹿児島市照國神社例祭、岡権宮司参列。

二九日 福岡市東区香椎宮例祭(並)創建一三〇〇年記念祭、神武宮司参列、高階禰宜随行。市戎大国講打合会、川畑禰宜以下出席。㈱伊藤園、飲料奉納。

三〇日 文化庁担当官、視察来社。院友神職会大阪支部総会、庄司 宮嵜 星野権禰宜出席。

三一日 定例清掃。職員会議。七五三詣撤下奉製作業公開、朝日放送取材。

令和6年のクエビコ

（すみよしかかしプロジェクト）

令和６年
10月20日

住吉大社宝之市神事奉納 学生招待相撲大会

第85回近畿高等学校、第9回大阪府中学生、第2回大阪府小学生　招待相撲大会

主催：住吉大社　主管：大阪府相撲連盟　協力：西野建設工業株式会社

高校生団体優勝　箕島高校Ｂ（和歌山県）

高校生　個人決勝

高校生　団体決勝

高校生個人優勝
井上力也氏（箕島高校）

【高校生の部】
団体優勝：箕島高校Ｂ（和歌山県）
個人優勝：井上力也氏（箕島高校）

【中学生の部】
優勝：森田渉太氏（大東市）

【小学生の部】
四年生優勝：片桐叶樹氏（守口市）
五年生優勝：河村清一郎氏（堺市）
六年生優勝：阿部聡太郎氏（堺市）

お知らせ

住吉大社防災施設整備工事

―国庫補助（重文国宝）住吉大社第一本殿ほか一七棟防災施設整備事業―

住吉大社では国宝本殿ほか重要文化財等の防災設備機能向上のため、国庫補助事業として、境内全域に及ぶ大規模な防災施設等の整備を実施しています。

本事業では、環境保全と文化庁による防災施設計画のもと、自動火災報知設備、消火設備、防犯設備およびITVカメラ監視設備を含む防災設備を整備しています。境内の各所では埋設工事等によりご参拝の方には一部でご迷惑ご不便をおかけしますが、なにとぞご理解ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、本事業の対象文化財は次のとおりです。

国宝

住吉大社本殿第一殿・第二殿・第三殿・第四殿

重要文化財

住吉大社南門・東楽所・西楽所・幣殿及び渡殿（第一殿）・幣殿及び渡殿（第二殿）・幣殿及び渡殿（第三殿）・幣殿及び渡殿（第四殿）・石舞台・南高蔵・北高蔵・住吉大社摂社大海神社本殿・幣殿及び渡殿・摂社大海神社西門・末社招魂社本殿（旧護摩堂）

（令和6年4月25日工事安全祈願祭を執行、事業は令和7年3月31日までの予定）

「環境保全計画図」
（別紙2－2）
年度：令和6年度　名称：（重文国宝）住吉大社第一本殿ほか17棟防災施設整備（建造物）（防災施設等）事業

観月祭 献詠入選作品

（令和6年9月17日）

後援：産経新聞社　協賛：未廣堂

短歌

選者：安田 純生、佐沢 邦子、香川 ヒサ

天位

明日朝の下拵へに菜を洗ふわが手の平に遊ぶ月影　埼玉県　槇島 茂

（評）「遊ぶ月影」によって手の動きも表現されている。

地位

縁側に「おーい」と呼べば犬の来る妻より先に月の出を見に　埼玉県　若山 巌

（評）妻を呼んだつもりが、すぐに来たのは犬であったところにユーモアも感じられる。

人位

月映ゆる水面をボラが音たててつぎつぎ飛べりふるさとの海　大阪府　城 富貴美

（評）故郷の海は美しいだけではなく、エネルギーもあふれていて、自分に力を与えてくれる。

佳作

お互ひの背中に薬塗るために我ら夫婦はけんかをしない　茨城県　海老原 順子

現役の四十年を「つかの間」と圧縮できる老いの味わい　千葉県　山本 明

里帰りの子を待つ庭に夕闇のせまりてねぶたの囃子きこゆる　青森県　安田 渓子

薄らと目を開け眠る母猫の顔踏み付けて子猫戯る　広島県　峠 美恵子

月は月ここに旅して来ないでと言っている気がする満月の夜　大阪府　新居 とも

街灯に濃き吾が姿影法師路地に入りては月影となる　大阪府　赤澤 皆

生駒山今しも転げ行かんとぞ思える月の尾根に乗りおり　大阪府　松田 圭悟

住吉の社の棟の千木のさき御幣のごとく白鷺の立つ　大分県　佐藤 信二

少年が肩を震はせ泣く夜更け下弦の月はルクスを落とす　兵庫県　山本 みさよ

満月の眼下に広がる雲の海今宵の宿は富士の頂　兵庫県　山本 繁徳

（総評）ユーモアのある歌、力のあふれる歌、しみじみとした歌など、様々な詠風のあるのが楽しい。（安田 純生）

俳句

選者：古賀しぐれ、森田純一郎、小杉伸一路

天位

野のかたちそのまま束ね月の供華　　東京都　西坂三穂子

（評）月見の句である。薄を活け、月見団子や季節の食物を供えるのだが、この句においては、供華に野原で取った草などをそのままの形で活けたのだろう。自然を慈しむ気持ちが伝わる句である。

地位

万象を青く鎮めて月闌くる　　兵庫県　井部和夫

（評）月闌くるとは、見事な満月という意味であろう。天地に存在するあらゆるものを青い月光によって鎮めているのだ。戦いの続く国々を治めてほしいという願いも伝わる。

人位

伶人の一管よりの月の宴　　大阪府　加藤あや

（評）伶人とは雅楽を奏する人のことであり、一管とは一本の笛のことだ。住吉大社では観月祭の時には厳かに雅楽が奏ぜられて神事が始まる。一管よりのという省略表現が見事だ。

佳作

今日の月生きとし生ける物照らす　　兵庫県　小林恕水

幣少し揺れ月の座の定りぬ　　大阪府　髙田佐土子

月光に包まれ浦の更けにけり　　兵庫県　柳田美鈴

しばらくは心あづけむ今日の月　　大阪府　室田妙子

平穏に生くる喜び月祀る　　兵庫県　宮本露子

一人旅機窓の月を友として　　兵庫県　広田祝世

万葉のころは海辺よ月涼し　　大阪府　今井文雄

名月や門に指し来る松の影　　大阪府　角野朝子

チェリストの奏づる平和望の月　　東京都　萩原一志

池の面に神代の光月祀る　　千葉県　大内田芳乃

（総評）今回の応募句は四七二句だった。投句された人の中にはかなり高齢の方も増えて来ていることと思う。自身の病気や老について詠んだ句も見受けられたが、俳句はペンと句帳さえあれば何歳になっても続けられることが素晴らしい。感動を一句に詠みこむことによって心と体の若さを保つことの出来る俳句を一生の友としていただきたいと思う。（森田純一郎）

住吉大社吉祥殿だより

美容室のこだわり

花嫁の自髪で結う

文金高島田（ぶんきんたかしまだ）「華結い（はなゆい）」

花嫁の髪型といえば文金高島田が知られます。これは江戸時代の初期に生まれた格調高い髪型で、当初は上流武家の女性に限られた特別な存在でしたが、明治時代には庶民にも広まり、花嫁の代表的な髪型になりました。

当時は自髪（地毛）で結うのが当たり前で、かつらが婚礼で使用されるようになったのは、昭和初期頃になってからです。令和になった現在、ご自分の髪で文金高島田を結いたいと願う花嫁やご参列の方がまた多くなりつつあります。自髪で結うことは、熟練の美容師の技があって可能となるものです。

そのため、住吉大社の結婚式で自髪の文金高島田を希望される花嫁も増えてまいりました。吉祥殿美容室では「華結い」と命名し、現代の女性に似合うよう研究した技術を提供しております。例えば顔の輪郭に合わせて、びん（鬢、横髪）の膨らみを調整したり、おでこに産毛がかかるようにすることで、より小顔に見せたり、スタイリング剤にこだわり、洋髪にヘアチェンジが出来るようにしたりと、昔と同じ髪型でも工夫を重ねて、今だからこそ新鮮な「華結い」を追求しています。そのほかにも美容室では3種類の日本髪のご提案をしています。

全かつら

昭和時代の結婚式では主流のスタイルでした。現在では当時のかつらより小ぶりになり、軽量化され、髪色も黒より栗色が主流で、現在の女性のお顔にも合わせやすく、古典的で厳かな挙式のイメージのスタイルになります。

半かつら

被せたかつらにご自身の毛を結い上げていきます。現在の時代劇で使用され、かつらの特徴である髪1本1本の毛流れが揃った綺麗な髪型ですが、まるで自分の髪で結ったような自然な仕上がりになります。

新日本髪

かつらより小ぶりで若々しくかわいらしい雰囲気の髪型です。文金高島田ではありませんが、和のイメージを残しながら、髪飾りをかんざし（簪）以外にお花やヘッドアクセサリーにするなど、現代的な良さも表現できるスタイルです。

昭和時代の主流スタイル

私たちは、常に和装に携わり、文金高島田やカジュアルな新日本髪など、わが国の伝統や文化を継承していくことにこだわりを持って日々お客様に接しています。また、おしゃれな洋髪も含め、住吉大社吉祥殿流の美しい花嫁をご提案いたします。

令和7年

住吉大社の初詣

三が日は大変混み合いますので
余裕をもって初詣におこしくださいますようお願いいたします。

年末年始 開閉門時間				
12月31日	開門 22:00	→		
1月1日	→		閉門 20:00	
1月2・3日	開門 6:00	～	閉門 19:00	
1月4・5日	開門 6:00	～	閉門 18:00	
1月6日～	開門 6:30	～	閉門 17:00	

P 12月31日～1月3日迄、交通規制に伴い駐車場閉鎖。お車での参拝はできません。

- 住吉大社駐車場は有料です。
- 1月中は大変混雑が予想されますので公共交通機関をご利用ください。
- 令和7年1月4日～令和7年2月2日までの駐車料金は以下の通りです。

普通車	1時間／1,000円

※ご祈祷をお受けの方は2時間無料。

大型車（バス）	1時間／2,000円

※大型車は12月31日～1月15日まで入庫できません。

五大力石守(石拾い)・釣りみくじは、12月31日～1月5日の期間閉鎖します。

年末年始(12/31～1/5)、露店の出店はありません。

安心してご参拝いただくために

混雑状況により、
入場を制限する場合があります。

体調がすぐれない場合は
参拝をおひかえください。

最新情報はホームページより

初詣情報

初辰まいり

令和七年（二〇二五）上半期の祭事暦

1月1日（水）	若水の儀・歳旦祭（中祭）	本宮・各摂末社
3日（金）	元始祭	本宮
4日（土）	踏歌神事	本宮
7日（火）	白馬神事・昭和天皇祭遥拝	本宮・遥拝所
9日（木）	市戎大国社宵宮祭（宵えびす）	末社 市戎大国社
10日（金）	初卯祭	本宮
11日（土）	市戎大国社例祭（本えびす）	末社 市戎大国社
12日（日）	初辰祭（※以降、毎月初辰祭）	末社 楠珺社
13日（月）	若宮八幡宮例祭（湯立神事）	摂社 若宮八幡宮
15日（水）	御結鎮神事	本宮・神館前庭
	古札焼納式（とんど）	南駐車場
27日（月）	新年献詠祭	本宮・神楽殿
	今主社例祭	末社 今主社
2月1日（土）	立聞社例祭・海士子社例祭	末社 立聞社・海士子社
2日（日）	節分祭・追儺歩射式	本宮・神館前庭
11日（火）	紀元祭（中祭）・橿原神宮遥拝	本宮・遥拝所
23日（日）	天長祭（中祭）	本宮
3月5日（水）	侍者社例祭	末社 侍者社
17日（月）	種貸社神種頒賜祭	末社 種貸社
	祈年祭（大祭）	本宮
20日（木）	皇霊祭遥拝	神楽殿
	招魂社春季例祭	末社 招魂社
4月3日（木）	松苗神事・神武天皇祭遥拝	本宮・遥拝所
6日（日）	正印殿祭	後村上天皇住吉行宮跡
9日（水）	種貸社例祭	末社 種貸社
	五社春季例祭	末社 五社
10日（木）	楠玉稲荷社例祭	境外末社 港住吉神社
14日（月）	鉾社例祭	末社 鉾社
15日（火）	おいとしぼし社春季例祭	末社 大歳社
20日（日）	島津忠久公誕生記念祭	誕生石
29日（火）	昭和祭（中祭）	本宮
5月1日（木）	朔日祭 並 全国弓道大会祈願祭	本宮・武道館前広場
10日（土）	卯之葉神事	本宮・五所御前・石舞台
11日（日）	初辰大祭・楠珺社例祭	末社 楠珺・種貸・大歳社
17日（土）	新宮社例祭・浅澤社例祭	末社 新宮社・浅澤社
6月1日（日）	貴船社例祭	末社 貴船社
14日（土）	御田植神事【重要無形民俗文化財】	本宮・御田
15日（日）	八所社例祭	末社 八所社
30日（月）	大祓	五月殿前

※朔日・卯之日・十五日・初辰祭などの恒例祭等に準ずるものは省略。

元祖　さつま焼（登録商標）

さつま焼はその昔
住吉の物産であったさつま芋を
形どったなにわの味、
昔からの銘菓であります。
十勝小豆を精製した
淡白な味のこしあんを、
秘伝の皮で包み、
心を込めて、一本一本竹串に刺して
焼き上げております。
幾星霜の老舗の味をご賞味ください。

摂津一之宮　住吉大社御用達御神饌調進処
御菓子司
株式会社　末廣堂
本　店　大阪市住吉区東粉浜三丁目一二―一四
TEL〇六(六六七一)四四二八
〇六(六六七八)八一三〇
FAX〇六(六六七八)三〇一九

毎週火曜定休日

第43号の表紙
イラスト素材は住吉人形の神巳。江戸時代から近代にかけて住吉で製作された土製の小さな人形は「住吉人形」として人気の縁起物でした。住吉大社では伝統的な住吉人形を授与品として受け継いでいます。

もういくつ寝ると、はったつまいり～♪

令和7年

1月11日

土曜日

初辰まいり

住吉大社

令和6年（2024）12月15日発行（年2回発行）　発行人　神武磐彦　発行　住吉大社　住所　大阪市住吉区住吉2丁目9番89号　Tel　06・6672・0753　印刷　真生印刷株式会社